

「健康で心豊かに長生きをしましょう。」

令和3年8月30日

村山 章

私は新潟県の僻地、豪雪地帯の貧しい農家で生まれました。高校を卒業して上京しました。そして昼間は仕事をし、夜は大学に通いました。大学では色んな人と知り合いました。今でも付き合っている友人がいますが、そのうちの二人は東京の生まれの東京育ちです。最近ではコロナ禍で会えませんが、でも長年楽しくお付き合いをさせてもらっています。とは言え、私は豪雪地帯の貧しい農家の生まれですから、アイデンティティーの違いを感じることがあります。この二人との関係を通じて、同じ東京でも山の手と下町では文化の違いがあると知りました。

住民の少ない僻地では村民のほとんどは知り合いですから、外で会えば挨拶するのが当たり前です。都会ではたくさんの方が暮らしていますが、見知らぬ同士であれば挨拶は交わしません。そのアイデンティティーの差が大きいと思います。“村民は皆親戚”みたいな世界で生まれ育った人間と、都会育ちの人との差は自ずと大きくなります。親戚に囲まれて育ったような田舎者は、もしかすると甘えの文化が強いのかもかもしれません。一方、地球規模でのグローバル化の波を受け、在留外国人数も増加しています。国土交通省の2018年のデータでは総人口に占める割合がなんと2.16%とありました。カモを捕まえて食べようとしたベトナム人が話題になりましたが、外国人ですから言葉も違えば文化も違います。いずれにしても私たちは人間社会で共同生活を送っているのですから、大切にしなければいけないのは倫理、人として踏み行ふべき道、道徳、モラルだと思います。国家や地域によってさまざまな違いがあるのは事実ですが、倫理は世界共通です。自分がされたら嫌なことは、他人にもしない。挨拶はちゃんとする。マナーを守る。集団の秩序を大切にする。これらを守ることに、違いはないはずで、色んなことに感謝をし、一日一日を大切に誠心誠意精進して生きることが大切なのだと思います。